

[特別活動]

「主体的・対話的で深い学び」が実現する学級づくり ー特別支援学級在籍児童を含めたクラス会議の実践と学級力分析を通してー

高坂 茉里*

1 問題と目的

令和2年度より新しく改訂された学習指導要領が小学校で全面实施された。今回の学習指導要領で求められているのは、多様な子供たちを誰一人として取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」が一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善である。

今宮・田中(2021)は授業改善にあたり、学級の中で多様な子供たちが個性を認め合って、助け合い学び合う関係づくりを行うことが、何よりも重要な教育課題になっていると考え、「学級力」という新しい仲間づくりの資質・能力を提案し、15年以上「学級力向上プロジェクト」の実践研究を行ってきた。その中で学級の変化を客観的に捉えるため各学年部に応じた「学級力アンケート」を制作し、集団の力を測るとともに、子供たち一人一人のやりぬく力(達成感, 自律力, 規律力)とつながる心(対話力, 協調力, 安心力)を4象限グラフ上にプロットし可視化することで、一人一人を大切にする学級づくりを目指している。

現在の学級の在り方は、「交流及び共同学習」の推進(文部科学省, 2019)により、特別支援学級在籍児も交流学級ではほとんどの時間を過ごす。特別支援学級担任として嶋崎(2019)は、特別支援学級在籍児童にとって交流学級での体験から自己肯定感を高め、将来へ向かう力を得ることが望まれるが、一方で交流学級在籍児とトラブルを起こしたり、活動に参加できずに帰ってきたりと様々な困難が発生することを経験し、特別支援学級在籍児童に対する交流学級での支援としてクラスメイトと良好な関係を築くためのサポートが必要であると述べている。入澤(2021)は特別支援学級において個別指導が中心となり、対大人との関わりが多いため児童が受け身になりやすく、特別支援学級での学びが交流学級で十分に生かされていないと振り返り、特別支援学級内でクラス会議の実践を行った。

クラス会議とは子供たちが自分たちで話し合い、学級の問題や個人の問題を解決していく会議である。アドラー心理学に基づくクラス会議を日本の学校教育に応用できるようにプログラム化した赤坂(2003)の研究では、学級生活に対する満足感が高まったことが報告されている。

私は交流学級担任として、誰もが満足する学級づくりの難しさを感じている。対人関係を築くことに課題を抱える児童や自己制御が難しい児童の言動が受け入れられず、学級で子供たち同士のトラブルが起こることを経験してきた。「主体的・対話的で深い学び」の実現には交流学級において学級力を高めることや人間関係における満足感、安心感をもてることが大切であると考えます。

そこで、以上のような実践や現在の目指すべき教育の在り方を踏まえ、本研究では、交流学級においてクラス会議を実践し、学級力アンケートによる学級としての変化と個々の児童の変化、とりわけ特別支援学級在籍児の変化を捉え、「主体的・対話的で深い学び」が実現する学級づくりについて考察していく。

2 研究の方法

(1) 児童の実態

本学級は小学校6年生、男子11人、女子11人、計22人(うち特別支援学級在籍1人をAとする。)の学級である。学年は43人で2クラス。5年進級時にクラス替えがあり、同じ学級のメンバーで1年を過ごしている。私は6年進級時に担任となった。出会った印象として学級の雰囲気は幼く、男子は大きな声を出したり机を叩いたりして自分を誇示し気を引こうとする児童が多く、女子は決まった仲の良い児童同士で話をし、学級全体に意見を言える児童が少なかった。

*三条市立栄中央小学校

5月の終わりに児童らからの提案でお楽しみ会をすることになった。係ごとで企画を考え行ったが、運営する係の話を聞かず、「静かにしてください。」と怒声が飛び交い、遊びが始まるまでに時間がかかった。クイズなど解答権が運営児童に委ねられるものは、女子は女子に男子は男子にばかり指名するので「ずるい。」と文句を言い合い、ドッチボールでは負けたチームが「チームの決め方が良くない。」と言い、けんかが始まった。Aは「自分にボールが回ってこない。」「みんながうるさい。」と足を踏み鳴らし大きな声で怒り出した。Aに対し、文句を言われたとけんかを仕掛ける子、呆れた様子の子、心配する子、無関心な子がいた。以上のような様子から学級力が低く、人間関係における満足感や安心感が低い学級であった。

(2) 実践期間と調査・分析方法

6年6月からクラス会議を実践した。そしてクラス会議を実践する前の4月、実践中の10月、実践開始から約一年後の3月の計3回、学級力アンケート（高学年用）を実施した。学級力（①目標達成力②自律実践力③対話創造力④協調維持力⑤安心実現力⑥規律遵守力）を測るための学級力アンケートのうち高学年は領域としてやや難しい自律力を外した5領域からなる。回答方法は1（まったくあてはまらない）～4（とてもあてはまる）の4段階である。分析には、今宮・田中（2021）の「学級力集計小学校高学年用」（エクセルソフト）を使用した。

クラス会議は6月4日～2月12日まで行った。6月4日～7月13日までは練習期間とし、担任から議題を提示し、司会の児童は名簿順で担任がサポート、板書は担任が行いながらクラス会議を行った。7月20日より児童らが自分たちで議題を考えクラス会議を仕切り直した。9月8日より児童らが板書も行い自分たちで全ての運営を行った。クラス会議を行う時間は週1時間の学級活動とし、必要があればモジュールタイムの15分で行うことや別の授業の時間をクラス会議と入れかえることもあった。

(3) クラス会議の実践方法

赤坂（2014）を参考に、クラス会議の名前を児童と考え「メリハリ」をもって行動し、みんなが「ハッピー」になれる会議という意味から「メリハピ会議」と名付けた。①輪になる、②お隣さんへのほめ言葉のシャワー、③話し手を明確にするトーキングスティックの使用、④一人一意見を出して回す「パス」や「みんなの意見に賛成する」などを伝えることとした。司会者は担任からの提案で名簿順に行い、クラス会議のルールとして「トーキングスティックを持っている人だけが話す」、「話している人の顔を見て話を聞く」、「最後まで話す」を確認した。クラス会議を楽しみ雰囲気にする目的で司会者の「せーの」の合図でパンパパンパンッとクラス全員で手拍子をして話し合いに入った。決まったことを確認し、最後に担任が一言感想を言い、「よー」パンツの手拍子で締めクラス会議の終わりとした。トーキングスティックは担任の思いで、相手を思いやり、心を燃やして話し合いができるように炎のぬいぐるみとした。このぬいぐるみは「ひもえちゃん」として親しまれた。

3 実践

約1年クラス会議を実践し、実践の形が進化する段階ごとに3期に分け、まとめる。

時期	実践方法	児童の様子
(1) クラス会議練習期 (6月～7月) ※担任が主導でクラス会議を行っていた時期。	・ 輪になる練習をする。 ・ 担任が学級に必要なと思った議題を提案する。 ・ 担任が司会者を名簿順と決める。 ・ 話し合いの板書は担任が行う。	・ 仲の良い友達の隣になりたがる児童が多く、輪になるのに時間がかかる。 ・ 友達が話しているときに、別の友達と話をしている児童が多数おり、児童同士で「静かにして」と注意が入る。 ・ 「パス」や「みんなの意見に賛成します。」が多く、発言する児童が限られている。 ・ 話し合いをつなげることなく自分の意見を言って終わる。 ・ 学級全体としてはクラス会議に期待し、楽しみにしている様子が表情や雰囲気から感じられる。 ・ Aは「こういうの（人と関わり話し合うこと）苦手なんです。」と話し合いに参加するのを拒み、輪の外にいてもあった。参加してもパスをすることが多い。
(2) クラス会議 実践中期	・ 児童が話し合いの議題を提案する。	・ 輪になるタイムを縮めようと、隣にこだわらず、すぐ輪になる児童が増える。

(8月～11月) ※児童たち自らがクラス会議を実施していた時期。	・議題ボックスを作り、学級のことから個人の悩みまで議題を取り上げる。議題の決定は議題ボックスからくじ引きで決める。くじを引く順番は名簿順となる。 ・司会をしたい児童が司会をする。 ・板書をしたい児童が板書をする。	・一人一意見が出せる。みんなの意見を聞いたあとで賛成する。 ・「メリハピ会議で決めよう。」と何かあるとクラス会議をしたいと児童たちから申し出がある。 ・男女別のクラス会議が行われる。 ・司会者が名簿を一周したので、やりたい人が司会をすると児童らが順番を決める。 ・自分たちで板書をやりたいと順番を決める。 ・友達の意見を聞いて賛成か反対か含め発言するようになる。 ・担任不在でクラス会議を実施するようになる。 ・Aは嫌がることなく輪に入るようになる。議題ボックスに自分の悩みを話し合っ欲しいと投稿する。
(3) クラス会議 実践後期 (12月～2月) ※クラス会議の形を取らずとも色んな場面で話しが行われていた時期。	・児童が議題を提案する。 ・司会をしたい児童が司会をする。 ・板書をしたい児童が板書をする。	・「もっとクラスの仲を深めたい。」と卒業までにやりたいことを話し合う。友達の意見を否定することなく可能な限りで全てをやろうと全員で意見が一致する。 ・「メリハピ会議をやりたい。」という申し出が少なくなる。 ・Aと交流児童とのめめごとはなくなる。

各期での主な実践を紹介する。

(1) クラス会議との出会い～メリハピ会議誕生～(クラス会議練習期：6月～7月)

6月に入り、担任からクラス会議を紹介。学級で実施することに児童たちから同意を得られたため、クラス会議を始めることにした。

6月4日 練習第1回 議題：みんなが目指すお楽しみ会をするにはどうすればよいか
 決まったこと：『チーム決めはみんなでくじ引きで決める』

クラス会議という形をとる前にどんなお楽しみ会をしたいのかを学級で話し合うと、『男女関係なく全員が楽しめる』『ムカムカせずに楽しくできる』『大きな声を出さない』『もめ事が起こらない』『ルールが決まっている』という5つの意見がでた。この5つを実現できる具体的な方法をメリハピ会議で話し合った。

「全員で楽しみたい」のだが、どうすればよいのか具体的な方法や意見が出てこなかった。「パス」が続いたとき、担任から「どうして楽しくなかったのか」と学級に問うと「(遊びが)終わった後で文句を言われた」「遊びのルールがよくわからなかった」「どうやってチームを決めたのか教えて欲しかった」などの答えが返ってきた。すると「チームを決めるとき、この人がいいとか足が速いとか言われる人はいいけど、言われない人は嫌だと思う。」「話し合いでチームを決めようとするともめる。くじ引きで決めればいいのではないか。」と意見が出た。また、「わからないことは質問する。」「心配なことは最初に言う。」「負けても認める。」「みんなでうまくできたらごほうびを作る。」などの意見もでたが、担任から「みんなでできそうなことに絞ろう。」と多数決を取り、『チーム決めはみんなでくじ引きで決める』ことが決まった。最後に担任から「文句がいたくなったり、どうすればいいかわからなくなったりしたら、このメリハピ会議でみんなで話し合おう。」と伝えた。

(2) 学級のは自分たちで決める～先生、メリハピ会議をやらせてください～(クラス会議実践中期：8月～11月)

2学期始めすぐに、「席替えについて話し合いたい」と早速メリハピ会議を行った。その後も児童からの提案で何度もメリハピ会議を行い、男女別に行ったり、担任が不在でも自分たちで会議を開いたりする様子が見られた。1月には研究授業としてメリハピ会議を公開した。その際、自分たちの会議を見てもらいたいと意欲的に活動に取り組んだ。

8月25日 第2回 議題：席替えのやり方(方法と期間)について
 決まったこと：『くじ引きで1週間ごとに席替えする』

1学期の席替えは担任が決めており、以前もずっと担任が決めていたので、自分たちで席替えを考えたいと2学期始業式の翌日1時間目にメリハピ会議を行うことになった。方法は「くじ引き」で全員一致した。くじ引き以外の選択肢として相談して決めることを引き合いに出し、「相談して決めると時間がかかる。」「相談で自分の気持ちを伝えられず嫌な思いをする人がいるかもしれない」とし、くじ引きならば「公平公正で文句が言えない。」「色んな人と隣になれる。」「誰とでも仲良くなれる。」「ドキドキする。」と肯定的な理由が続いた。そして、「元々みんな仲良しだから誰と近

くになっても大丈夫だと思う。」という意見が出ると学級が穏やかな雰囲気包まれた。次に期間については「一日に一回」という意見が最初に出ると、「楽しいけど、短いではないか。」「配り当番など席を覚える人にとっては大変。日直一周でどうか。」「日直一周だと長い。半分の11日間でどうか。」「いや、一週間でどうか。」「授業時間が減って心配。」など活発な話し合いとなった。最後に多数決をとり、1日0人、日直一周0人、11日間4人、1週間18人で「1週間」に決まった。担任から、なんのために席替えについて話し合ったのかを問い、席替えをすることで傷つく人がいたり、トラブルが起こったり、授業に集中できなくなるようなことがあれば、また席替えについて話し合おうと伝えた。

12月8日（研究授業） 第11回 議題：授業中静かにするには？
決まったこと：『今まで通りくじ引きで席替えをする。しゃべらないように意識する。』

4月初より、学級は落ち着き授業に集中する様子が見られている。しかし授業中についついふざけてしまうという児童本人からの相談で「どうしたら授業中に静かにできるのか」という議題が話し合われた。議題を出した本人が確かに授業に関係のない話で盛り上がりしてしまうのは学級全体が承知の上だったのでみんな真剣に考え、発言していた。まず「自分で話さないようにする。」という意見が出ると、「それが難しいのではないかな。みんな一人一人も集中し、ふざけているのに反応しなければいいのではないかな。」と意見が出た。その具体的な方法として、「席の位置を男女別に決める。」と席替えについての話し合いになった。しかし、「席替えはみんなで話し合って決めたこと。このまま続けたいから、学級で授業中にしゃべらないように意識しよう。」とまとまった。「意識する」という抽象的なことに担任から「どうやって意識するのか」を問うと、「見えるところに戒めを貼る」「授業前に意識する掛け声をかける」などと考えた。

(3) 卒業に向かって～メリハピ会議でみんなの心が一つになった～（クラス会議実践後期：12月～2月）

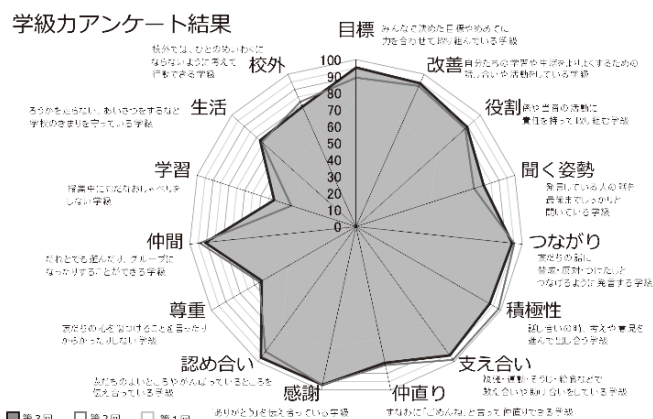
12月頃から卒業に向けた意識が高まり、学年での話し合い活動が増えていった。学級でも卒業に向けて話し合いたいことがあるとメリハピ会議を行った。

1月26日 第14回 議題：卒業までにみんなでやりたいこと
決まったこと：『可能なかたちで全部する』

「メリハピ会議でクラスの仲が深まった。」「卒業まで仲良くいい思い出を作りたい。」と色々な意見が出た。「みんなでもう一度修学旅行に行きたい。」という意見が盛り上がるのに対して、「私も行きたいけれどお金もかかるし、自分たちでは決められないのでは。」と冷静に現実を検討する意見も出るようになった。それに対して、「確かに。」と否定するわけではなく、こうだったらできるのではないかと可能な方法を考えるようになった。代替策として出てきたのが、「学校を散歩する」である。こうして、「学校全体での逃走中」は「体育館でおにごっこ」へ「学校へ埋めるタイムカプセル」は「担任が保管するタイムカプセル」へなど、出来るように考え、残りの小学校生活でみんなから出た意見を可能なかたちで全部行くと決まった。担任からはスムーズな話し合いで驚いたことと、みんなの思いを実現するために協力し合う姿に感動したことを伝えた。数多くの案が出たため、各企画でチームを作り、具体的な提案を行うことになった。6年生になり初めてのお楽しみ会でもめていたことが嘘のように、どのチームが提案したことにも建設的な意見と態度で楽しく学級でのイベントが進んでいった。

4 結果と考察

3回行った学級力アンケートの結果は図2と図3の示すとおりである。図1のレーダーチャートでは第1回から第2回にかけて大きく全体に広がり、第3回ではほぼ変化がないことがわかる。図2の領域とその項目ごとに分析すると、4月の第1回から10月の第2回のアンケート結果の変化が大きく、5領域全項目全ての力が上がっている。その中でも一番力の上昇した領域は「話をつなげる力」で項目は「つながり（友達の話に賛成・反対・つけたしとつなげるように発言する学級）」である。次に上がった領域は「友達を支える力」で項目は「支え合い（勉強・運動・掃除・給食な



どで教え合いや助け合いをしている学級)」である。第2回から3月の第3回のアンケート結果はほぼ変化が見られないが、中でも同数値の上昇で力の上がった領域は「目標をやりとげる力」と「きまりを守る力」で項目は各々「目標（みんなで決めた目標やめあてに力を合わせて取り組んでいる学級）」と「学習（授業中にむだなおしゃべりをしない学級）」である。次に上がった領域は「話をつなげる力」で項目は「聞く姿勢（発言している人の話を最後までしっかりと聞いている学級）」である。同じ領域内でも下がったのは「積極性（話し合う時、考えや意見を進んで出し合う学級）」の項目である。

以上のような結果からクラス会議の実践により、学級力は全体的に上がる。中でもクラス会議実践中期では「話をつなげる力」と「友達を支える力」が上がり、クラス会議実施後期になると「目標をやり遂げる力」と「きまりを守る力」が上がるのが分かった。

個人から見た学級力の4象限プロットでは、第1回アンケート時の図3は「やりぬく力」と「つながる心」の低い第3象限（左下）,「やりぬく力」の低い第4象限（右下）に学級力を位置付けている児童が8人いたが、第2回アンケート時では第4象限に1人以外全員「やりぬく力」と「つながる心」の高い第1象限（右上）に位置し（図4）、第3回アンケート時では学級全員が第1象限に学級を位置付けた（図5）。クラス会議の実践が学級全体の「やりぬく力」と「つながる心」を高めたといえる。

次に、Aの学級力アンケートのレーダーチャート結果（A：実線、学級平均：点線）に注目する。第1回では「話をつなげる力」が全くあてはまらない学級だと評価した（図6）。また「安心を生む力」の「尊重」友達の心を傷つけることを言ったり、からかったりしない学級、「きまりを守る力」の「学習」授業中にむだなおしゃべりをしない学級も全くあてはまらないと評価した（図6）。

しかし、第2回のアンケートでは「話をつなげる力」と「安心を生む力」がある学級だと評価し、「学習」の項目を除き、レーダーチャートがほぼ円状になるほど学級力が高いと評価した（図7）。第3回は「学習」項目も高く評価し、ほぼ円状を保っている（図8）。

	回	第1回	第2回	第3回
目標をやりとげる力	目標	76	89	95
	改善	68	92	94
	役割	65	88	89
話をつなげる力	聞く姿勢	47	74	80
	つながり	71	95	94
	積極性	67	98	92
友達を支える力	支え合い	70	98	95
	仲直り	68	85	83
	感謝	74	97	97
安心を生む力	認め合い	76	92	97
	尊重	47	67	65
	仲間	76	94	91
きまりを守る力	学習	29	41	52
	生活	52	76	77
	校外	59	82	79

図2 学級力5領域とその項目3期分結果

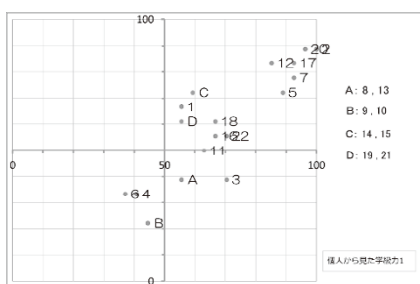


図3 4月の個人から見た学級力

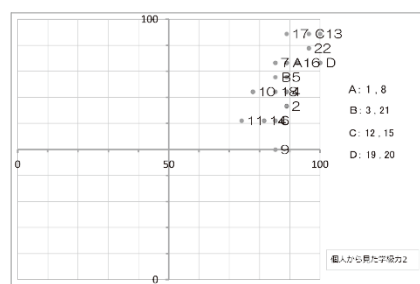


図4 10月の個人から見た学級力

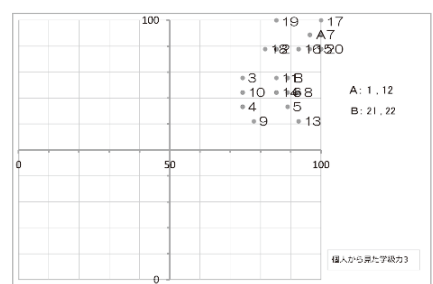


図5 3月の個人から見た学級力



図6 4月のAから見た学級力

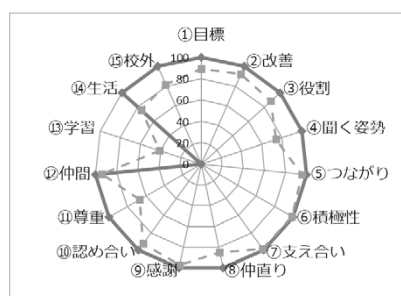


図7 10月のAから見た学級力

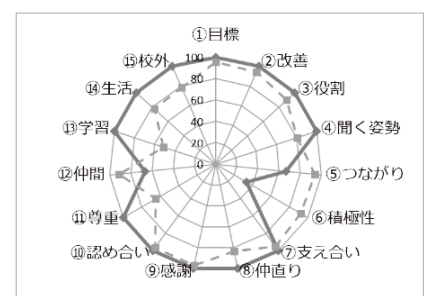


図8 3月のAから見た学級力

クラス会議を通したAと交流児童との関わりを(1)～(3)の時期ごとにまとめる。

時期	Aの様子	Aと交流児童の関わり
(1)	その時の気分や調子によってメリハピ会議への参加の可否が決まる。すぐに椅子を持って輪を作ることが難しく、「(椅子移動時の)音がうるさい。」と嫌がったり、「(輪になることで)みんなが見てくる。」と感じたりすることがあった。そのようなときは無理に参加を促さず、Aが落ち着ける場所で過ごした。	Aが「参加したくない。」など否定的な発言をすると、「そういうこと言うな。」などと言い返す児童がいた。Aが突然大きな声を出すなどすると驚き嫌がる様子がみられた。Aの調子がのらないと、クラス会議が始まるまでに時間がかかってしまうため、「困る」という児童がいた。
(2)	メリハピ会議に慣れてきた様子。速くきれいな輪になることに協力する。自分の番に考えを言い、考えがない場合は「みんなの意見に賛成します。」と伝える。議題ボックスに「イライラして大きい声を出してしまう」ことを相談する。自己主張ばかりする様子がなくなり、友達の意見を受け入れ、自分の行動を振り返り、良くないことはみんなに謝るようになる。	学級全体として、友達の意見を受け止め、自分の意見を言えるようになる。交流学級児童たちは、Aがイライラして大声を出してしまうことを悩んでいると聞き、Aの気持ちを受け止める様子が見られる。気分の調子によりイライラしてしまうAに対して、そっと様子を見守る雰囲気になった。
(3)	落ち着いて授業に参加するようになった。学級の中でイライラすることが減った。	Aに対する理解が深まり、ちょうど良い距離感で仲良く活動するようになった。

クラス会議を通してAへの理解が深まり、交流児童の接し方が相手を尊重するように変化した。Aは学級で落ち着いた様子が増え、児童たちは「学級が一つになった」と感じていた。Aは「メリハピ会議と出会って自分が素直になれてよかった。メリハピ会議は自分の悩みが言える相談所だ。」と振り返りを書いている。多くの他児童も「自分の考えを積極的に言えるようになった。」とし、「みんなが聞いてくれるので話しやすかった。」からだと振り返っている。円になり話し合うことで友達の表情や態度がよく見え、「よくうなずいて話を聞いてくれている。」など友達の良さを見つけ自分も真似しようと学び合っている様子もうかがえた。また、別の授業においてもAの参加意欲が高まり、多くの他児童も「メリハピ会議でないときも意見が言えるようになった。」とし、学級全体で対話の成立する場面が多くなった。けんかや争いが減ったのは、「みんなの意見を聞いて、みんなで納得してルールを作ったから。みんながルールを守ろうと意識するようになった。」「23人の意見と考えを聞き、相手を思う気持ちが生まれたから。」だと理解していた。また、「たくさんの人と話す機会が増えた。前よりもみんなと仲良くなれた。」「メリハピ会議で意見を言って自信がもてた。」「メリハピ会議と出会って楽しい学校生活が送れている。」とクラス会議の実践により、自分自身の成長と変化を感じ、学級全体が楽しく過ごしやすくなったことを感じている児童がほとんどであった。

以上のような学級力アンケートの結果や児童の様子から、クラス会議で「話をつなげる力」が伸び、受け止めてもらえる安心感の中で自信をもって意見を伝え、自分たちで学級を作るのだという意識が高まったと考えられる。特別支援学級在籍児童も互いに認め合う雰囲気の輪の中で安心して自分の悩みを相談することができた。「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための学級づくりには、話を聞き、伝え、つなげる力が大切であると考えられる。今後は「話をつなげる力」に注目し、クラス会議の実践を続けていきたい。

引用参考文献

赤坂真二「アドラー心理学に基づくクラス会議の効果の研究」, 上越教育大学修士論文, 未公刊

赤坂真二「いま「クラス会議」がすごい!」学陽書房, 2014年

今宮信吾・田中博之の編著「NEW学級力向上プロジェクト小中学校のクラスが変わる学級力プロット図誕生!」金子書房, 2021年

入澤亜由美「主体的・対話的で深い学びに向けた話し合い活動についての一考察ー特別支援学級における「クラス会議プログラム」の実践を通してー」, 上越教育大学, 教育実践研究第31集, 2021年, 229-234pp

嶋崎真一・司城紀代美「特別支援学級在籍児童に対する交流学級での支援」, 宇都宮大学教育学部教育実践紀要第6号別冊, 2019年8月9日

文部科学省初等中等教育局教育課程課 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料 令和3年3月版

文部科学省 交流及び共同学習ガイド(2019年3月改定) https://www.mext.go.jp/A_menu/shotou/tokubetu/1413898.htm